

自然・人間・文化 ―場としての歴史学・人類学―

目次

I. 認識への眼

歴史認識の方法と政治観の転換	千本 秀樹	1
19世紀フランスの歴史哲学 ―ミシュレにおける「民族」「民衆」「自然」の観念―	立川 孝一	11
日本における方位重視・距離軽視型吉凶観の展開と異型浸透地域	小口 千明	21

II. 歴史が問いかける世界

台湾の「民間信仰」研究	古家 信平	45
黄土地帯の国都と生態環境史 ―中国西北地域の少数民族の歴史と文化―	妹尾 達彦	55
清朝中国の知識人の政治批判 ―巾洪亮書の人口論の背景―	片岡 一忠	95
血盟団事件覚書 ―村の青年と家郷―	伊藤 純郎	113

III. 自然にいだかれて

麦作農耕の起源と自然環境 ―柵ヤンガードリアス期の検討―	常木 晃	125
乳糖消化不良と乳利用の開始について	三宅 裕	135
フィリピン・レイテ島北部マリピピ島の陶工と交易商人	牛島 巖	143
レンデイーレの年齢体系とその変容に関する社会生態学的考察	佐藤 俊	155